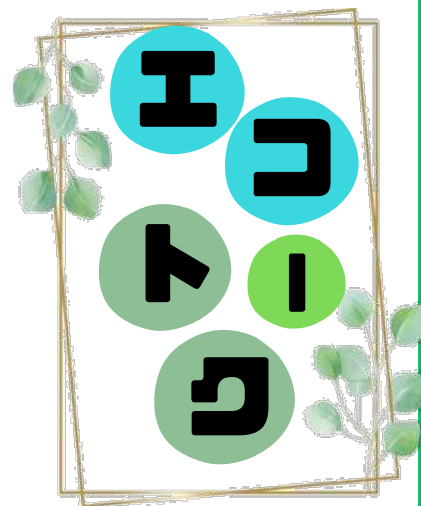


宇美町



(2020年広報9月号)

本稿が宇美町の皆さんのお手元に届く9月中旬には、暑い日が少なくなっているでしょうか？

今年は7月29日に「九州北部地方は梅雨が明けたとみられる」と気象庁から発表されました。平年からすると11日遅い梅雨明けだったそうです。

今年の7月の気候の特徴の一つに台風の発生状況があります。6月12日に台風2号が発生して以来3号がまだ発生していないのです。例年7月は平均3・6個発生し月別では3番目に多いのですが、7月31日時点では3号は発生していません。太平洋高気圧が日本列島上空にあった梅雨前線を押し上げて梅雨明けとなりませんが、今年はインド洋の海水温が高く、気流の関係で水分を多く含んだ雲帯が福岡県南部から熊本県上空に線状降水帯を発生させ、各地で甚大な水害をもたらしました。これは海水温が1℃上昇すると大気中の水蒸気量が7%上昇するためです。地球温暖化現象は地球規模で起きており、赤道付近だけではなく北の方でも顕著に表れており、北極圏では深刻な状況になっています。



ロシアのシベリア地方は多くの地域で永久凍土の上で生活が営まれているのですが、永久凍土が融解している地域が増え、地盤沈下がいたるところで発生しています。ノリリスクでは火力発電所の燃料タンクが破損し、2万トンの燃料が近くの川などに流出しました。ベルホヤンスクでは6月20日に北極圏で過去最高となる38℃を記録しています。以前にも書きましたが永久凍土が融解し埋設処理されていた動物の死骸の腐敗が進み、メタンガスが発生したり、凍結していた炭疽菌が融解によって復活して感染が広がり、2000頭のトナカイが死亡し、12歳の少年の死亡も確認されています。何千キロも離れた地域で起きている他人事と思わないでください。

分母が70億であっても私たちは分子の1であるのですから・・・

文責 福岡県地球温暖化防止活動

推進員 竹吉 栄隆